

厚生福祉

 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 月額税込み4,300円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2013
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

特集 東日本大震災 22府県が「受援計画」策定 震災踏まえ、24都県は検討	2
特集 都道府県・政令都市2013年度厚生・労働・環境関係予算①—福島県、さいたま市、千葉県	4
ワンコイン健診の現場から vol.11 インド・ヘルスケア最前線①	7
中央省庁ニュース	8
高齢職員の活用方法、検討へ/小規模事業者対象の補助金創設 ほか	
進言(岐阜県)	9
第三者組織が解決を いじめ対策で提言—教育再生会議	10
インタビュールーム(長野県)	11
iPS臨床、初の申請 目の難病で移植研究、来年度にも開始—理研	12
学会・医療情報	13
睡眠不足続くと情緒不安定 ほか	
TPP交渉参加を容認 国民皆保険など、国益確保条件に—自民調査会	14
事件・事故・裁判	15
求刑超えの一審判決破棄 ほか	
大臣会見	16
短信	17
ニュースフラッシュ	18

「結婚」と「出産」

社会福祉法人新生活会
 名誉理事 長・石原美智子



今年も法人職員の新年会があった。目玉の出し物に「ジャンケンゲーム」がある。会場受付で全員から徴収された百円硬貨は、全て最終勝者のものになる。第一回で最後まで残ったのは私だった。そして「運の会」の会長となり、それ以後、毎年一人ずつ会員が増えていく。たまたまどういふ訳か、運の会の会員はその年に結婚しているのだ。

今年も百円硬貨を運よくゲットしたのは独身の女性。手にした百円硬貨全てを東北の震災に寄付してくれた彼女に向かって、私はうっかり「今年は結婚運があるかも」と言ってしまった。何気なく発した言葉だったが、何故か私の心の中にこの言葉が居座ったので、考えてみる機会になった。

結婚観や出産に対する考え方はこのところ相当変わってきていると思うが、私たちの時代は結婚や出産に対する固定観念があって、そこから外れると、まるで一人前ではないような重圧感があった。そのため、かつては適齢期になっても相手がいないと職場に居づらくなって、偽装して退職をしたりしたそうだ。また、結婚をすると次は「子供は？」と無遠慮に聞く周りに、授からない女性の中には大変な心痛を経験した人もいるはずだ。

よく考えてみると、結婚や出産は個人の価値観や運命などに大きく関係している。他人が無責任に入り込む分野ではない。

職場に若い人が増えると結婚、出産の話題が増えるのは自然なことだし、今は昔のように必ずしも結婚、出産が人生に占める重圧は大きくないかも知れないが、それにしても個人差はあるのだから、それをゴシップ的な会話にしない優しい心遣いは必要になる。しかしこの感覚は、無事に結婚、出産を経ってきた人たちにはあまりピンとこないことで、悪気なく若者に「結婚はいつ？ 出産は？」と問うて、そのことで相手がつらい思いをしているかも知れないことに気づきにくい。

若者に対して、私たちがケアを通して常に意識している「尊厳」と「自立」というキーワードを思い出し、相手の人生に対して適度な距離で関心を持つことを心掛けようと思ったのである。

いずれにしても、今年の運の会の会員になった彼女が、結婚に限らずとも幸せな日々を過ごせることを心から願っているこの頃である。